社会の変化に対応し、未来を創り出すたくましい子どもの育成
～「学習の個性化」の充実を通して～

宇都宮大学共同教育学部附属中学校共同研究

Ⅰ　研究テーマ設定の趣旨

本附属学校園では、2019 年７月より本格的に幼・小・中・特別支援が連携し、「社会の変化に対応し、未来を創り出すたくましい子ども」を目指す子ども像と定め研究を進めている。具体的には各教科等の研究部会として、13 のプロジェクトを立ち上げ、12 年間の子どもの継続的な発達を視野に入れ、学びの道筋を設定して授業実践とその評価を進めている。

プロジェクトによる研究が行われる以前は、各校種がそれぞれに研究テーマを設け独自に研究を重ねてきた。本校では「共同研究」として、「思考を深める授業の創造」や「確かな学びを通じて自己を確立する生徒の育成」など、全教科の柱となる研究テーマを設け、各教科がそれを具体化した論を立て研究を進めてきた。2021 年７月からは「社会の変化に対応し、未来を創り出すたくましい子どもの育成　～１人１台端末を用いた実践を通して～」という研究テーマを設定し、本学校園が目指す子ども像と、そのために育成したい３つの力＜学びをつなげる力・かかわり合う力・やり遂げようとする力＞を視野に入れながら、１人１台の端末を用いた実践を通し、その手だての有効性を評価する研究を２年間行ってきた。

2023 年７月からの「共同研究」における新たなテーマ設定に向けて、本校の教職員にアンケート調査を行った（**図１**）。本アンケートは、本校の現状や生徒の姿を鑑みた際に、教職員が追究する必要性を感じている点について調査したものである。アンケート調査の結果を見ると、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」、「主体的な学び」、「自己調整学習」といった回答が多かった。

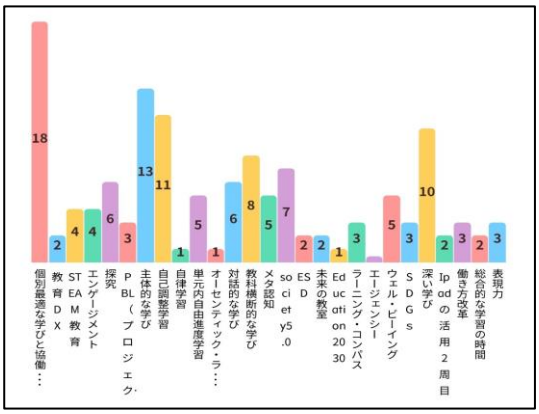

図１　本校教職員へのアンケート結果

「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」については、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して　～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（以下「令和３年答申」とする。）の中で「これからの学校においては、子供が『個別最適な学び』を進められるよう、教師が専門職としての知見を活用し、子供の実態に応じて、学習内容の確実な定着を図る観点や、その理解を深め広げる学習を充実させる観点から、カリキュラム・マネジメントの充実・強化を図るとともに、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。（中略）さらに、『個別最適な学び』が『孤立した学び』に陥らないよう、これまでも『日本型学校教育』において重視されてきた、探究的な学習や体験活動などを通じ、

子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する『協働的な学び』を充実することも重要である。」とされている。さらに「個別最適な学び」については「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されており、「指導の個別化」は「全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、 教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなど」、「学習の個性化」は「基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する」と記されている。

本校では過去に「コミュニケーションする力」や「協同」に着目した研究を行うなど、「協働的な学び」に関連した研究を行ってきた実績がある。現在も本校では授業中や諸活動の中で、級友や教職員などと積極的にかかわり合い、自らの考えを広げたり深めたりする生徒の姿が多く見られる。一方で、本校教職員が必要性を感じている「主体的な学び」や「自己調整学習」など「個別最適な学び」に関連する部分については、近年の研究においてあまり重点を置いてこなかったという課題もある。さらに、本校では生徒自身が「セルフコントロール」できるようになることをモットーとし、様々な活動に取り組んでいる実態がある。

これまでの本校の研究の成果と課題や本校の現状、生徒の実態などを踏まえ、本校共同研究では、「個別最適な学び」の中でも特に「学習の個性化」を充実させることが、より一層の「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」に繋がると考えた。そして「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」を図ることで、本学校園が目指す子ども像の実現や本学校園で育てたい資質・能力のよりよい育成を目指し、本研究テーマを設定し、授業実践及び分析を行うこととした。さらに、授業実践を重ねる中で「『学習の個性化』を促す手だてなどを模索し、その実践事例を発信することを通し研究成果を地域へと還元することも、本研究の大きな意義であると考えている。

Ⅱ　研究の目的

本研究は上記の研究テーマ設定の趣旨にもとづき、次の２点を目的として研究を進める。

① 本学校園が目指す子ども像に向かい、「学習の個性化」を充実させた実践を通し、育てたい３つの資質・能力の育成を図る。

② 「『学習の個性化』を促す手だて」などを模索し、実践等を地域へ発信する。

Ⅲ　研究の期間

・2023 年 7 月から 2026 年６月までの３年間とする。

Ⅳ　研究計画・研究方法

本研究は以下の研究計画・方法に基づいて研究を進めることする。（順不同）

１年次（本年度）

（１）アンケートを実施し、生徒の回答結果から育てたい３つの資質・能力の向上や「学習の個性化」の充実の状況について見取る工夫をする。

（２）校内授業研究会を２回開催し、それぞれ２教科、計４教科の授業提案を行う。

（３）群馬大学共同教育学部附属中学校との合同研修会の実施や共同研究全体会での研修などを通して、「『個別最適な学び』と『協働的な学びの一体的な充実』」などについての見識を深める。

（４）各教科で「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」と「『学習の個性化』を促す手だて」を想定し、それらを踏まえた実践を行うことで、検証を進める。

（５）実践などを本校のホームページに掲載することで地域への情報発信を図る。

２年次（案）

（１）アンケートを実施し、生徒の変容から育てたい３つの資質・能力の向上や「学習の個性化」の充実の状況について見取る工夫をする。

（２）校内授業研究会を２回開催し、それぞれ２教科、計４教科の授業提案を行う。

（３）群馬大学共同教育学部附属中学校との合同研修会の実施や共同研究全体会での研修などを通して、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」などについての見識をより深める。

（４）各教科での実践を通して、「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」と「『学習の個性化』を促す手だて」について、検証を進める。

（５）実践などを本校のホームページに掲載することで地域への情報発信を図る。

３年次（案）

（１）アンケートを実施し、生徒の変容から育てたい３つの資質・能力の向上や「学習の個性化」の充実の状況について見取る工夫をする。

（２）校内授業研究会を１回開催し、計２教科の授業提案を行う。

（３）群馬大学共同教育学部附属中学校との合同研修会の実施や共同研究全体会での研修などを通して、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」などについての見識をより深める。

（４）各教科での実践を通して、「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」と「『学習の個性化』を促す手だて」について、検証を進める。

（５）実践などを本校のホームページに掲載することで地域への情報発信を図る。

Ⅴ　本年度の研究

本年度は、上記の計画に沿って研究を進めた。ここでは、その具体や成果などについて述べていくことにする。

（１）　群馬大学共同教育学部附属中学校と合同研修会

群馬大学共同教育学部附属中学校と合同研修会を行い、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」を話題の中心にして、互いの授業実践の共有や授業の在り方についての意見交換などをする機会を教科ごとに設けた。群馬大学共同教育学部附属中学校では、「生徒一人一人の学びを最大限に引き出す授業の創造　①ＩＣＴを活用した『個別最適な学び』と『協働的な学び』の充実に向けた実践を通して　②教科横断的な学びを実現する「未来創造科」の実践を通して」という研究テーマを掲げ、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」に着目した研究を行っており、合同研修会は本校教職員にとって、「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」について理解を深めるよい機会となった。下記は合同研修会後の本校教職員の振り返りの一部である。

・群大附の先生方が取り組まれていることの一つに、生徒自身が単元の評価基準を考え、個別に到達目標を設定させるようなことを構想されていることを知り刺激を受けた。初めはそのようなことが可能なのかと思ったが、群大附の先生方が生徒にB基準のモデルを示した上で、自分たちが目指す姿を生徒同士で考え合わせる活動を試みられておいることが分かり、ねらいとされていることのイメージが明確となった。具体的な実践の報告をお聞きすることができ、たいへん参考になった。（英語科）
・技術・家庭科の問題解決学習は、個別最適な学びであると考えました。例えば、生活の中から問題を発見して、課題を設定し、〇〇の技術を使って、課題を解決するという活動が技術・家庭科にはあります。自分の机が散らかってしまう問題に対して、「教科書や塾のテキストが収納できる本棚を作ろう」と課題を設定する生徒がいます。生徒によって、問題と課題が違うので、この活動は個別最適な学びといえるのではないかというものです。プログラムの授業も同じようなことを行います。教師は、「防犯システムを作ろう」という学習課題を出すときも、「生活をよりよくするプログラムを考えよう」という学習課題を出すときも、生徒一人一人が、場面の設定をしたり、よりよくしようとする生活が違ったりするので、個別最適な学びとつながると思いました。（技術・家庭科）

（２）　「学習の個性化」について見識を深めるための校内研修

群馬大学共同教育学部附属中学校との合同研修会後、８月と 10 月に「学習の個性化」について見識を深めるための校内研修を行った。研修の内容は**表１**のとおりである。

表１

８月	①文部科学省や独立行政法人教職員支援機構で作成した動画を視聴する。 ②群馬大学共同教育学部附属中学校との合同研修会や①の動画視聴で感じたことや考えたことを踏まえ、「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」について、教科をこえて編成した4つのグループで意見交換する。 ③「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」を実現するために、どのような手だてが効果的か、またどのような授業を行ってみたいかについて意見交換する。 ④各グループで表出した考えを全体で共有する。
10 月	①8月の研修後に各教科で想定した「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」と「『学習の個性化』を促す手だて」について、各教科に共通する点や教科の特性が表れている点を中心に、教科をこえて編成した4つのグループで意見交換する。 ②各グループで表出した考えを全体で共有する。

８月の研修では、意見交換を通して「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」を想起することで、「学習の個性化」の充実を図るために有効な手だてや授業の具体について考えを広げたり深めたりすることができた（**図２**）。

10 月の研修では、８月の研修を受けて各教科で想定した「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」と「『学習の個性化』を促す手だて」について意見交換する中で多くの教科の見方・考え方に触れ、自教科で想定した「生徒の姿」や「手だて」を吟味し、その後の授業改善へと繋げることができた。

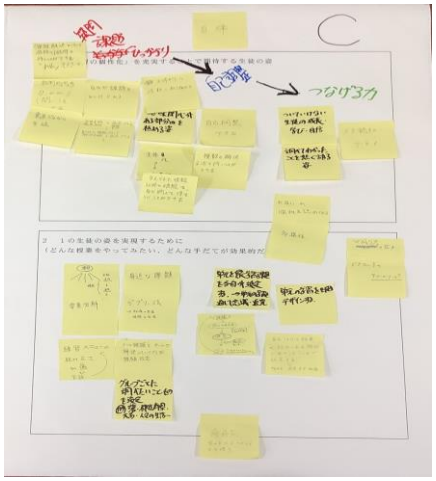

図２　８月の研修の様子

（３）　生徒へのアンケートの実施

各教科で本格的に「学習の個性化」を充実するための授業改善に取り組む前に、本学校園で育てたい３つの資質・能力の向上や「学習の個性化」の充実の状況を把握するための一助として、全校生徒へアンケートを実施した。３つの資質・能力に関する質問項目は本学校園研究主任会で、「学習の個性化」の充実に関する質問項目は、前述の校内研修で表出した考えをもとに本校共同研全体会でそれぞれ作成した（**図３**）。

附属学校園で育成したい3つの資質・能力について（4件法）　よくしている　時々している　あまりしていない　していない

私は課題を解決する際に、

【学びをつなげる力】
○これまでに身につけた力や知識・技能を生かし関連付けて、課題を解決している。
○物事の関係やつながりを整理し、順序立てて考えている。
○必要に応じて適切に情報を得たり、情報を整理・比較したりしている。

【かかわり合う力】
○他者と交流することで、自分の考えを広げたり深めたりしている。
○自分の思いや考えを言葉や行動、絵や図などさまざまな手段で表し、他者にわかりやすく伝えている。
○他者の思いや考えを受け入れて、自分の考えの形成に役立てている。
○複数人で課題解決に臨むときには、コミュニケーションを図り、協力して課題を解決している。

【やり遂げようとする力】
○難解な課題であっても、解決しようと試行錯誤している。
○自ら進んで課題を解決している。
○課題解決までの見通しを立てて課題を解決している。
○課題解決の方法や進め方などについて点検し、調整しながら進めている。
○課題解決までの自らの状況を振り返り、次に生かしている。

「学習の個性化」の充実について（4件法）　そう思う　やや思う　あまり思わない　思わない

各教科の授業には

★これまでの学習で身につけた力や知識・技能を生かし関連付けて、課題を解決する授業がある。
★自分の興味・関心に応じて、自ら学習課題を設定する授業がある。
★自ら情報を収集、整理・分析し、まとめ・表現する授業がある。
★課題解決の方法や学習の進め方などについて、自ら調整する授業がある。
★自らの学習の達成度やそこに向けた学習の進め方などについて振り返り、その後の学習に生かす授業がある。
★自ら評価基準（A・B・C）を設定し、学習に臨む授業がある。

図３　生徒への質問項目一覧

アンケートの結果を見ると、多くの質問項目で肯定的回答が 90%以上であった。その中で、「私は課題を解決する際に、課題解決までの見通しを立てて課題を解決している。」（肯定的回答 82.2%）、「私は課題を解決する際に、課題解決の方法や進め方などについて点検し、調整しながら進めている。」（肯定的回答 86.9%）、「私は課題を解決する際に、課題解決までの自らの状況を振り返り、次に生かしている。」（肯定的回答 89.5%）の３つの項目に関して、他の項目と比較すると肯定的回答が少ないことが分かった。この３つの項目に関しては、どれも「自己調整力」に関する項目だという共通点がある。

前述の通り「令和３年答申」では、「学習の個性化」について「子供自身が学習が最適となるよう調整する」と述べられている。したがって「学習の個性化」を充実させていくことが「自己調整力」の育成につながると考えられる。このように、本アンケートを実施することにより「学習の個性化」の充実を図る必要性を再確認することができた。

今後も定期的にアンケート調査を行うことで、生徒の変容から育てたい３つの資質・能力の向上や「学習の個性化」の充実の状況について見取り、「『学習の個性化』を促す手だて」の有効性の検証及び授業改善へと繋げていきたいと考えている。

（４） 校内授業研究会

各教科で想定した「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」と「『学習の個性化』を促す手だて」を踏まえて、今年度は１月に国語科と理科、２月に社会科と音楽科が授業提案を行った。研究体制や校内授業研究会のもち方、授業観察の視点や方法などについては前研究を踏襲した。詳細に関しては、『宇大附属中研究論集　第 70 集』及び『宇大附属中研究論集　第 71 集』を参照いただきたい。

本稿では国語科が提案した「『学習の個性化』を促す手だて」の有効性について検証したいと考える。なお、各教科の授業実践の概要については、本校のホームページを合わせて参照いただきたい。

国語科では、本題材における「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」を「これまでの学習で身につけた力や知識・技能を関連付けて課題を解決する姿」及び「見通しをもって学習に取り組み、課題解決の方法や学習の進め方などを自ら調整する姿」と想定し、「『少年の日の思い出』を読み、生徒それぞれの興味・関心に応じて問いを立て、既習の言語技能を活用しながら探究する」という学習課題を設定した。そして本題材において用いた「『学習の個性化』を促す手だて」は下記のとおりである。

①「言葉のお道具箱」の活用
②「探究活動シート」の活用
③生徒が自らの学びを省察できる場面の設定

①については、ロイロノートの共有ノート機能を活用してクラスごとに作成した、これまでの学習履歴を蓄積したものである（**図４**）。学級の生徒全員と教科担任で共有しており、生徒が主体となって編集し、習得した言語技能とその具体が可視化されている。「言葉のお道具箱」を活用することで、生徒は自らが習得した言語技能を自覚化しており、本題材においても、課題解決に向けて分析を行う際に活用する生徒の姿が見られた。

図４　言葉のお道具箱

②について、**図５**のように生徒は計画時に問いや課題解決の方法、探究の進め方を整理し、見通しをもって探究学習に取り組んでいた。また各時の終末には「探究活動シート」を用いて自らの学習状況を振り返り、必要に応じて問いや課題解決の方法、探究の進め方を再検討するなど、自らの学びを調整する生徒の姿が見られた。

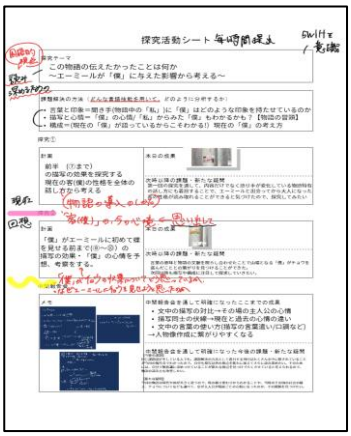

図５　探究活動シート

③について、本題材では第６時に中間報告会という場面を設定した。それまでの探究の成果と課題について交流する「協働的な学び」の場面を設定することで、生徒それぞれの学びの成果と課題が明確になっていた。それらを踏まえ、本時の終末では「探究活動シート」を用いて問いや課題解決の方法、学習の進め方などを調整する生徒の姿が見られた。下記は中間報告会後の生徒及び授業を参観した教職員の感想の一部である。

・自分だけだと一つの視点からしか追究できていないし、断定的に見てしまっているので、結構分析するところが限られていたが、自分と似たようなテーマでありながら異なる視点の人たちと中間報告会を行ったことで、自分の見落としている部分が明確になり、新たな課題も見つかった。（生徒）

・本時のように探究→共有→探究のステップを踏むことで、学びの視野が広がったり、行き詰まっていることにヒントを得られたりしている生徒の姿が見られた。（教職員）

（５）　「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」と「『学習の個性化』を促す手だて」

前述した校内研修での意見交換や今年度の授業実践を踏まえて、各教科で想定した「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」と「『学習の個性化』を促す手だて」を整理した。今年度整理した一覧を、次頁に**表２**として掲載する。しかしこれらに関しては、現時点で深い分析には至っていない。今後も引き続き授業実践及び検証を重ね、更新していくことが必要とされる。

Ⅵ　研究の成果と課題（本年度）

成果

・群馬大学附属中学校との合同研修会や校内研修を通して、「学習の個性化」について見識を深めることができた。

・校内研修や授業実践を踏まえて、「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」と「『学習の個性化』を促す手だて」を各教科で整理することができた。

課題

・育てたい３つの資質・能力の向上や「学習の個性化」の充実の状況について、生徒の変容をもとに見取ること。（アンケート調査の実施）

・授業実践を重ねることで「『学習の個性化』を促す手だて」の有効性の検証を進め、「『学習の個性化』を充実することで期待する生徒の姿」と「『学習の個性化』を促す手だて」を再整理すること。

表２

	「学習の個性化」を充実することで期待する生徒の姿	「学習の個性化」を促す手だて
国語	これまでの学習で身につけた力や知識・技能を関連付けて課題を解決する姿	・課題（問い）を解決するための力や知識・技能の蓄積 ・課題（問い）を設定するための視点の蓄積 ・題材及び課題設定の工夫 ・学習履歴の蓄積と活用 ・1枚ポートフォリオ（振り返り）の活用 ・自らの学びを省察できる場面の設定
	批判的思考を働かせ、自ら学習課題を設定する姿	
	必要な情報を自ら収集、整理・分析し、まとめ・表現する姿	
	見通しをもって学習に取り組み、課題解決の方法や学習の進め方などを自ら調整する姿	
	学習の達成度や進め方、身につけた力や知識・技能などについて振り返り、その後の学習に生かす姿	
社会	学習課題に対して、適切な情報を収集し、必要な情報を選択・判断して活用する姿	・適切に情報を収集し、選択・判断できる技能の習得 ・社会的な見方・考え方を働かせながら既習の知識を活用し、追究できるような学習課題の設定 ・学習の見通しをもたせるとともに、学びの過程を振り返り、学習内容を調整できるような単元の学習シートの活用
	これまでに学んだことを基に、新たな疑問や問いを立てることで解決を目指そうとする姿	
	社会的事象を基に、課題を見出し、社会的な見方・考え方を働かせながら学習計画を立案し、解決を目指す姿	
数学	数学を日常場面へ活用する姿	・単元末の振り返りやレポート ・探究の方向性の助言 ・ふさわしい課題の提示
	歴史・背景について探究する姿	
	様々な解法を互いに尊重しあう姿	
理科	身近な自然現象に対して、疑問を持ち、仮説を設定して、既存の知識を活用して解決策を考え、課題を解決していく姿	・課題選択学習や、課題設定学習における観察や実験の材料を多様に準備し、その中から生徒に選択、または生徒自身に決定させる。 ・発展学習として単元の終わりなどに、既習事項をベースとして発展的課題を生徒に設定させる。学習空間を教室外や、学習時間を授業時間外など生徒の活動の場を広げていく。
	自らの力で仮説を設定できる姿	
	課題解決の方法を自ら立案できる姿	
音楽	音楽的な見方・考え方が身に付き，自分に合った見方・考え方を活用する姿	・課題を見つけるための方法や視点を提示し，選択させながら学習を進める。
	生徒の興味関心の幅が広がり，多様な音楽への興味が深まる姿	
美術	造形的な見方・考え方を働かせながら、これまでに学んだことを活かして楽しく創造活動に取り組む姿	・教科の視点の習得と振り返り ・経験化した学びの活用 ・観点に気づかせるICTの活用 ・生徒の学習状況を把握するためのICTの活用 ・情報共有のためのICTの活用 ・自発的な課題設定を促す発問 ・探究的な学習活動の時間の確保
	造形的な視点をもって対象や事象に対して自分としての意味や価値を作り出したり、新しい価値観を見出したりしながら、主体的に創造活動に取り組む姿	
技術・家庭	学習したことを、家庭で活用しようとする姿	・授業で学習したことを、家庭で生かせる課題の提示 ・学習したことを生かせる課題の提示 ・家庭で実践できる課題の準備 （アプリの使い方の指導）
	自分の技能を理解して、活用しようとしている姿	
	自分が置かれている状況（家庭環境）を理解して、問題を発見し、解決しようとしている姿	
	学びを通して、自分の思いを生活に反映する(できる)姿	
	自分の思いを具体化できる姿	
保体	生徒が知識・技能の習得に必要性を感じて課題解決に向かう姿	・個に応じた知識・技能の習得ができるゆとりのある単元計画の作成 ・技能を提示してから、自分なりの解釈をする時間を設ける ・学習内容と自分を比較する場の設定や発問の工夫 ・反転学習を取り入れた授業展開
	個に応じた技能を身に付け、授業中に発揮する姿	
	授業で学んだ知識・技能を、自分の身体や生活に当てはめて考えを深める姿	
英語	自己の関心や必要に応じて情報を探究しようとする姿	・発展的な教材の開発 ・生徒へのフィードバックの充実 ・ICTの効果的な活用 ・ふり返り活動の充実
	自己の興味、関心に従ってテーマを設定し、パフォーマンス活動に意欲的に取り組もうとする姿	
	自己の活動をふり返り、分析し、次の活動に向けて改善しようとする姿	
道徳	これまでの自分の生き方や各教科等における学習の成果を基に、よりよい生き方について広い視野から多面的・多角的に考えている姿	・特定の内容項目に偏らない授業の開発 ・生徒の思考にそった授業展開の工夫 ・「関わりワード」を生かした補助発問

【主な引用・参考文献】

・宇都宮大学共同教育学部附属学校園：『連携研究プロジェクト研究概要集』，2023.

・宇都宮大学共同教育学部附属中学校：『宇大附属中研究論集　第71集』，2022.　　・宇都宮大学共同教育学部附属中学校：『宇大附属中研究論集　第70集』，2021.

・中央教育審議会：「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」，2021.